



杉並第二小学校での授業支援活動

【杉並・書記・藤澤拓海記】 2019年2月より成浜分会と下高永福分会の2分会の合併で誕生した新分会で、人数は400人。名称はそれぞれが1文字ずつ出し合い「浜福分会」です。

本部青年部長をはじめ、歴代支部青年部長を5人輩出するなど青年部「愛」にあふれるメンバーで、分会役員の平均年齢が52歳と若いことが特徴。頼りになる大淵分会長を先頭に、合併してからの総会・住宅デー・バス日帰り旅行・若手交流会・20年を超える伝統の杉並第二小学校授業支援など仲間と楽しく協力しあ

りながら、職人さんの腕を授業で発揮していただきたいと依頼され実現したものです。5月に開催した「分会若手交流会・春」は若手だけで25人を集めました。ここでの出会いをきっかけに仕事で横のつながりを持ち、分会内の仲間同士で仕事をすることも増



5月に開催した「分会若手交流会・春」

えました。10月のバス旅行「富士ファリパークと御殿場ツアー」ではあっとい間に定員を超える50人が集まり交流を深めました。そして11月に

行なった「分会若手交流会・秋」では30人が集まりました。春・秋の拡大月間では組織強化をテーマに若手を中心に支部イベントだけで無く分会主催のイベントを呼びかけて訪問した成果です。こうしたイベントに参加してくれた仲間が分会に定着してもらえようという目標です。

く後継者育成のためにも、2月に予定している新年会の目標は60人。今後も様々な行事に参加したくなるような「浜福分会で良かった」と言われる分会を目指し活動中です。

失敗してしまったりと未だに解決できない問題もあります。多くの成功と失敗を若手が経験し、もっと大きな組織にできればと、役員の2人は話していました。

# 新春特別企画 名物分会スペシャル



豪華賞品を用意して開催された分会ボウリング大会 (昨年10月)



4月には役員を中心に毎年恒例のたけのご掘りへ

## 1分会で行政丸ごと担当 若手役員2人が奮闘

【府中国立・書記・佐藤瑞樹通信員】府中国立支部の地域分会は府中市に6つ、国立市に1つと、国立分会は1つの分会で1つの行政をまるまる担当するほどの大きな分会かと思いきや、200人を少し超えるぐらいの人員で、府中市の他分会に比べるとひと回り小さい分会です。

そんな国立分会は現在、分会の役員が若返りが進んでいます。10月の分会後継者対策部が主催する交流会には、青年・後継者世代を中心に、13人が参加。その後の支部の打ち上げには23歳と19歳の若手が参加するなど、分会の声掛けが成功しています。昨年は分会長31歳、副分会

長は45歳の2人だけで分会運営を担っていました。なぜ2人しか役員がいなかったかというと、2018年3月の分会総会にて、今まで分会を担ってきた分会役員が全員退任。あとは若い人に任せようとの意向でした。しかし、誰が来年の役員をするかということは考えていませんでした。



9月1日の支部拡大出陣式では国立の若手が奮闘

そんなところに現れた、社員の保険証を受け取りに来た若い社長に、分会長をお願いしたところ、二つ返事でOK。また、その人が分会長をするなら自分が副分会長をやると、後継者世代の方が立候補しました。そんな混乱の中で、この二人は精力的に活動し、前述のように若手が一番集まる分会となりました。

## イベントは満員御礼 仲の良さも拡大数も1番

【足立・総合建築事務・山田香織通信員】私が所属する「青井足立分会」は、6年前に五反野分会と青井分会が合併し誕生。合併までの道のりは厳しいものがあり、折り合いがつかないままの「妥協した合併は絶対にしない」と何度も何度も話し合いを行ないました。その甲斐もあってか、

今では20〜80代の幅広い年齢層の役員が登用され、言いにくいことを言い合える関係です。「組合員の仲の良さは全分会中No.1なのではないか」と感じています。

若手役員の育成にも取り組んでおり、初めて部会へ参加する際には絶対に1人で参加させません。また、2018年から「仲間との繋がりを深めよう」をスローガンに「分会役員による群会議訪問」を常時行なっています。これが功を奏したのか、拡大では仲間

の紹介を自然としてくれるようになり、秋の月間では支部No.1の拡大件数を達成することが出来ました。仲間の皆が組合制度の魅力だけでなく、青井足立分会に所属していること自体が魅力と感

得ていたら幸いです。ここまで分会の仲間が大事と語ってききましたが、本当は足立支部の全員が仲間だと思っています。どの役職でも同じことだと思います。

が脱退防止や役員登用につながるかと信じています。青井足立分会はこれからも仲間を大切にし、マイペースに進んでいこうと思います。

長は45歳の2人だけで分会運営を担っていました。なぜ2人しか役員がいなかったかというと、2018年3月の分会総会にて、今まで分会を担ってきた分会役員が全員退任。あとは若い人に任せようとの意向でした。しかし、誰が来年の役員をするかということは考えていませんでした。

そんなところに現れた、社員の保険証を受け取りに来た若い社長に、分会長をお願いしたところ、二つ返事でOK。また、その人が分会長をするなら自分が副分会長をやると、後継者世代の方が立候補しました。そんな混乱の中で、この二人は精力的に活動し、前述のように若手が一番集まる分会となりました。